



北上川水系水質汚濁対策連絡協議会下流支局
 江合川及び鳴瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会
 (事務局) 国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所

油流出事故の主な原因

- ・ 給油中に**その場を離れた**際に 漏出
- ・ 給油コックが**弛んでいた**ため 漏出
- ・ 落雪、除雪により**ホームタンクが転倒し** 漏出
- ・ タンク、栓が**破損し** 漏出
- ・ **劣化した配管**から 漏出 (車、タンク、建物)

- ・ 事故**発見**は、主に第3者の**通報**です
- ・ 水質事故対応の費用は、**原因者の負担**となります
- ・ **早い**事故対応が、早い原因箇所の特定になり、**被害の軽減**に繋がります
- ・ **古い灯油**や**廃油**の処分は、販売店に**相談**するなど、適切に処理しましょう

油流出事故を防ぐための心がけ

1. その場を離れない、目を離さない
 ポリタンク等から油があふれたら大変です
2. 屋根からの落雪、除雪には注意を！
 雪が当たってタンクを傷めたら大変です
3. 配油管の場所には目印を！
 誤って配油管を傷つけたら大変です
4. 定期点検を怠らない！
 タンク、栓、配管が劣化していたら大変です

油が漏出したら、水路・川に油が流れているのを発見したら
すみやかに市町村か消防署に連絡をお願いします

施設老朽化による

油流出事故が多発しています！

①老朽化した施設からの油漏れが増加しています。

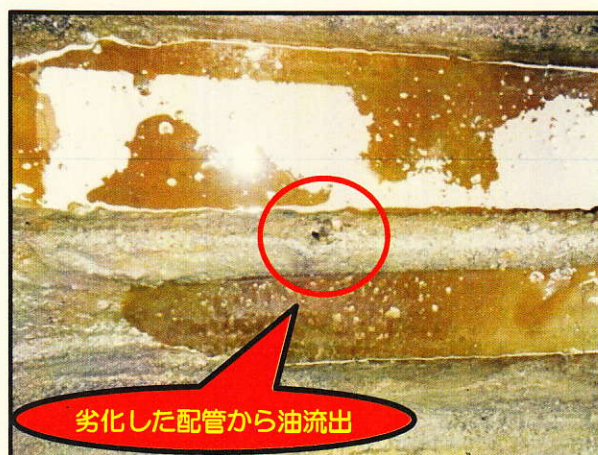
(油が流出して100万円以上の原因者負担となった事例もあります。)

②特に埋設された配管は点検が困難で、油漏れが発見されにくい。
定期的な点検や目視・打音による確認をお願いします。

③油流出事故が発生した場合には、速やかにオイルフェンス・吸着マット等による拡散防止に努めて下さい。また「水質汚濁対策連絡協議会 事務局」へ速やかに連絡をお願いします。

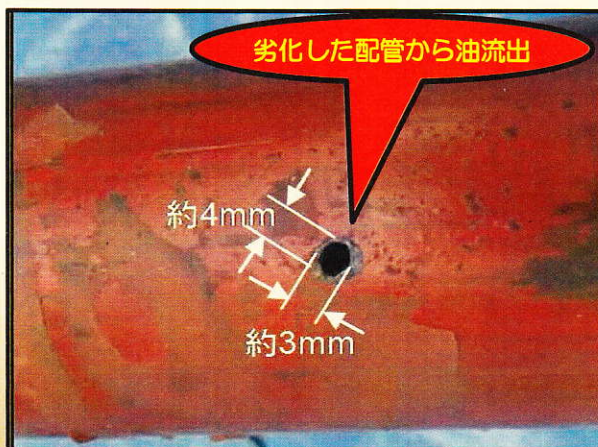
■ 水質事故発生事例

状況：側溝内の送油管が老朽化により穴が空き、油漏れが発生した。



■ 水質事故発生事例

状況：送油管の裏が老朽化により穴が空き、油漏れが発生した。



■ 連絡先・問い合わせ先 ■

北上川水系水質汚濁対策連絡協議会 下流支局（宮城県） 上流支局（岩手県）

江合川及び鳴瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会

事務局（下流） 国土交通省 北上川下流河川事務所 管理課 Tel 0225-94-9852（直通）

（上流） 国土交通省 岩手河川国道事務所 河川管理課 Tel 019-624-3281（直通）

ホームタンクの点検シート

江合川及び鳴瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会
北上川水系水質汚濁対策連絡協議会 下流支局

区分	点検内容	はい	いいえ
周囲	タンクや配管の付近から、強い油臭がする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	タンク下の土やアスファルトが、油で浸みている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	落雪、投雪する場所に、タンクや配管がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	側溝や水路、河川に、油が浮いている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
タンク本体	タンクが固定されていない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	脚部に、歪みやグラつき、傾きがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	外面に、小さな穴や錆など変形、腐食、亀裂がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	油量計が、故障や破損している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ストレーナカップに、ひび割れや緩みが発生している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	油滲、油漏れがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配管	配管や給油ホースに、劣化（亀裂、腐食など）がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	接続不良が見られる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	配管やホースから、油滲、油漏がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	以前と比べ、燃料（ゲージ）の減り方が早い。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	以前と比べ、給油量、給油回数が多くなった。給油間隔が短くなった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	機器に、燃料が供給されなくなった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	しばらく定期点検をしていない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	故障や破損を指摘されたが、放置している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

一つでも「はい」の場合は、燃料業者やホームタンク業者等の専門業者へ相談してみましよう。
ボイラーやロードヒーティング等の油類を使用する機器も点検しましょう。

給油の時には

- その場を離れない。 < 目を離してしまった！ が、一番多い油事故の原因です >
- 目を離さない。
- 栓を閉めたかを確認する。（閉めたはず、、、は再確認しましょう）

万が一、油を流出させてしまったら

- バルブ、遮断弁を閉じる。
- 消防署、または市役所・町村役場へ、すぐに連絡する。
- 布や新聞紙等で流れ出ない措置をする。

その他の注意事項

- 除草や除雪、雪下ろし時に、タンクや配管を破損、転倒させないように目印を立てましよう。
- 使われていないタンクは、タンクを空にして、元栓を閉めましよう。
- 防油堤が有る場合、溜まった雨水を排水ましよう。水抜き栓は閉めておきましよう。